



義太夫協会会報
第71号

平成12年7月15日
 社団法人 義太夫協会発行
 〒104-0061 東京都中央区銀座
 4-13-11 文明堂3F
 TEL (3541) 5471
 FAX

「これからどうなる21」

社団法人義太夫協会会長
景山正隆

二十世紀最後の年に、義太夫協会が社団法人設立三十周年という大きな節目の年を迎えたのは何か因縁のような気がします。三十年を回顧すると同時に、新しい世紀に向かってへこれからどうなるのか、大きな関心事であることはいまでもないことでしょう。去る一月に、岩波書店から『これからどうなる21』と題する凡そ五百ページの分厚い本が刊行されました。本書の内容は「政治・法律」「文化・学問・芸術」など十の分野に分けられ、二百四十一名の執筆者によって、様々な分野の二十一世紀の未来像について予測・主張・夢が思い思いに論じられています。

いかにもミレニアムの年にふさわしい出版物として書店で特に目を惹かれたのですが、目次を閲覧して大きな疑問を抱かざるを得ませんでした。十分野のうち伝統芸能が取扱われて然るべきは「文化・学問・芸術」「スポーツ・芸能・趣味」の二分野なのですが、両分野五十一篇の小論文の中に、義太夫節はるか、雅楽・能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃・邦楽などの伝統芸能の将来について論じられたものは皆無といってもよいのです。僅かに小島美子さんの「民族的性格を強める日本の音楽」が伝統文化の大切さを踏まえて二十一世紀の日本の音楽のあり方を論じているだ

けです。これは出版社の企画・編集関係者のわが国の伝統文化に対する関心（問題意識）の薄いことを如実に物語っているといわざるを得ません。

この一事でも知られるように、現代の社会の風潮は、マスコミをはじめ押並べて伝統文化を軽視しています。例えばマスメディアとして国民生活に絶大な影響力をもつテレビも、今に始まったことではありませんが、大手民放テレビ局の伝統芸能の番組は皆無といってもよいでしょう。伝統文化を大切に、保存・保護ばかりでなく、現代社会に対応する振興を図るには、マスコミ関係者にもっと眼を開いてもらいたいものです。

私は、最近のそうした嘆かわしい状況に心を痛める度に思い起こすのは、明治九年に来日したフランスの実業家エミール・ギメ（フランス国立東洋美術館創立者）が帰国後明治十三年に刊行した『日本散策 東京―日光』の次の一節です。

「日本人は日本の風俗に充分な自信をもっていない。彼らの力となり、幸せのもとをなしていたその習俗・制度・思想まで、彼らはあまりに早く捨ててしまおうとしている。恐らく、またそれを取り戻そうとする時が来るであろう。彼らのために私はそうなることを願っている」（訳・尾本圭子）

今の日本・日本人は、百二十年前にギメが願っていたような状況に、はたしてなっているのでしょうか。

回向院

——歴史あれこれ——

JR 兩國駅を下車して五、六分の所に、回向院という三百三十余年の歴史を持つお寺があります。そこには義太夫節の祖、竹本義太夫を始めとして、義太夫ゆかりの方々のお墓が数多くあり、当協会では、毎年義太夫関係の物故者を供養する「祖先祭」を、ここ回向院でとり行っています。

*



回向院は、四代將軍家綱の治世の明暦三年（一六五七）に、浄土宗諸宗山無縁寺として開創されました。この年は、有名な「明暦の振袖火事」がおこった年です。この大火事は、江戸の町の大半を、一朝にして焦土と化し、その焼死者は、十万余人にもものぼったといわれています。

この未曾有の大災害後、幕府では大火による無縁横死者を埋葬、供養するための寺、回向院を、隅田川、両国の東のたもとに開きました。その後も度重なる大火、安政の大地震の折などの、焼死、溺死者供養をする寺として不可欠の存在となりました。と同時に、無縁寺としての開創精神に立って、さまざまの事故による横死者、また牢病死者、刑死者の埋葬供養も行われるようになりました。更に、この三界の万霊を供養するの旨として、諸動物の回向もつかさどる事になったようです。

*

日本一の無縁寺、回向院は一方で、境内堂宇に安置される観世音菩薩や弁財天などが、江戸庶民に尊像されることになり、さまざまの巡拝の札所となって、境内は参詣する人々で賑わったそうです。そして江戸後期になると勸進相撲の定場所に定められ、明治末期までの七十六年間、いわゆる「回向院相撲」の時代を日本相撲史上に刻しました。

*

庶民に慕われた回向院ですが、当院自体も度重なる大火に被害をこうむり、明治の廃仏毀釈、大正の大震災、また第二次世界大戦の

大空襲などによって、幾度か存亡の危機に立たされましたが、その度ごとに檀信徒の浄信にささえられて乗り切り、昭和四十三年より広く浄財を集めてついに、昭和五十三年にコンクリート三階建、六百坪の大殿が完成しました。更に昭和六十一年に山門が建てられ、一応復興が全うし、今日に至っています。復興報告の大法要は、昭和五十四年十一月に、一千人を越す来賓者のもと、営まれました。

*

その折、当協会もお招きに預かりました。また平成の事業の一つとして墓地整理をなされた時、若手一同で本堂において、献奏させ



(和田博氏 撮影)

義太夫節保存会と

重要無形文化財総合指定について

竹本綾太夫

昭和五十五年三月、演奏経験二十五年以上、優れた演奏者であり、伝承者の養成に指導力と熱意を有する三十人により「義太夫節保存会」が結成されました。そして四月、国は義太夫節を重要無形文化財に総合指定し、義太夫節保存会会員(技芸員代表竹本土佐広師)三十名をその保持者と認定いたしました。

個人で保持者として認定されている人は、通称人間国宝と呼ばれています。総合指定の場合はそのように申しませんが、やはり優れた「わざ」の保持者として認められたのですから、喜ばしい限りでございます。

それまで総合指定されましたのは、雅楽・能楽・文楽・歌舞伎・組踊の五件で、それぞれ優れた人々で保存会のような会が結成されその会員が保持者に認定されています。以上はいずれも演劇等の総合芸能でありまして、音楽としてではありません。種々ある伝統音楽の中から、義太夫節が第一号として選ばれましたのは、「義太夫節は、人形浄瑠璃のための音楽であるが、後には歌舞伎にも用いられ、独立した音楽として芸術上、音楽史上重要な価値を有する。そして(一)国の助成の措置を必要とする緊急性が大である、(二)優れた人が多い、(三)全国的にまとまり易い、とい

うことでありました。

保存会の事業としては是非進めなくてはならないことは、(一)技芸の伝統を正しく守り、その向上を図る(そのための研究会・発表会を行う、(二)伝承者の育成、(三)記録作成と保存、の三点であります。以上は協会が従来行ってきた事業でもありますが、それを更に強力に押し進めなければなりません。ただ名誉な置物のような団体ではないのです。保存会会員各位の奮起、協会会員皆様の強力な御支援、義太夫愛好の方々の御理解と御鞭撻を切望するものであります。

■昭和五十五年四月二十一日

第一次認定三十名

■昭和六十一年四月二十日

第二次認定十一名

■平成十二年五月十九日

第三次認定八名

計四十九名認定

物故者二十五名

現在 太夫十七名 三味線七名 計二十四名

会長 竹本越道

今回の認定者

太夫の部

竹本土佐千代(九州)

竹本 朝輝

竹本 綾一

竹本 越若

竹本 土佐恵

三味線の部
竹本 越孝

竹本 土佐子

豊澤 幸治

「ぎだゆう座」旗上げ!

永谷商事株式会社長の御好意ではじまりました上野広小路亭若手勉強会「じよぎ」が定着してまいりました。

おかげさまをもちまして四月一日より偶数月にも公演をさせていただくことになりました。

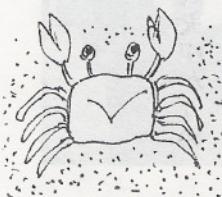
名づけて「ぎだゆう座」。解説とテーマをつけ、より多くの方々に義太夫が身近なものとなるように普及を目指した演奏会です。

奇数月の「じよぎ」そして偶数月の「ぎだゆう座」。

毎月一日二日は必ず女流義太夫が上野で公演をしております。まだまだ微力な者ばかりですが女流義太夫振興発展のため力をあわせ努力をして参りたいと思っております。

どうか皆さまには末長い御ひいきとご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(K)



◆鶴澤津賀寿 奨励賞受賞

ビクター 伝統文化振興財団財団賞

去る五月二十五日、帝国ホテル福の間にて受賞式が行なわれました。

この賞は過去、清元美治郎師はじめ名だたる演奏家が受賞され、津賀寿は四人目の受賞者となります。審査員の先生のお話で、今回なんと四十五名の候補者の中から選ばれたということが明らかにされ、本人も驚いていました。

津賀寿はクリーム地の訪問着に黒の綴の帯を締め、珍らしくお化粧もして、とても立派できれいでした。挨拶では、駒之助師匠や応援して下さる方々へのお礼、自分が頂いてよいのか怖くなったこと、栄えあるこの賞に泥を塗らないよう、今までどおり努力していきたいということ等、たいへん謙虚かつ前向きに話していました。

さてこの賞は副賞としてCDを作って下さるのですが、駒之助師匠との『大和屋』これが絶品です。全くもって今日の津賀寿があるのは、本人の努力は勿論ですが、ひとえに駒之助師匠のおかげと申しても過言ではないでしょう。その師匠が愛弟子のために、各氏に深くと頭を下げていらしたのが大変印象的でした。またCDに一文を寄せておられる池田弘一先生が「嬉しいねえ」を連発され、心からお喜びのご様子が伝わってきました。このCDには、ひこばえの演奏による『名曲組曲』も収

録されています。

懇親会も和気あいあい、とても素晴らしい一夜でした。(寛也)

*CDは非売品ですが、ご希望の方には製作実費でおわけできるそうです。詳しくは義太夫協会までお問い合わせ下さい。

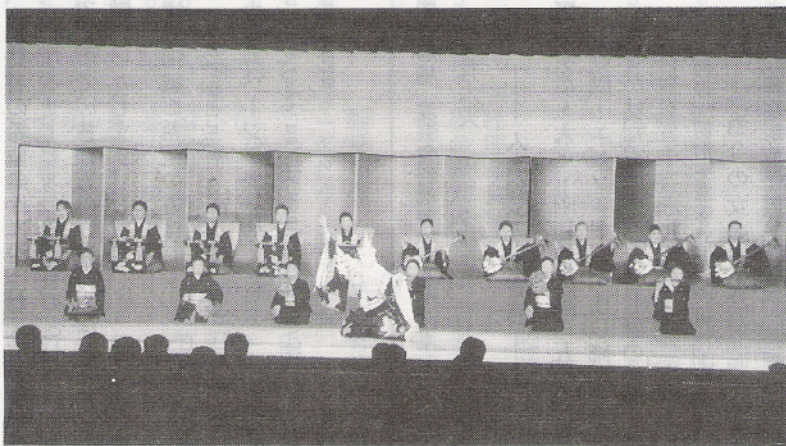


神田外大に修練の会をつくろう

池田弘一

千葉市幕張にある神田外語大学に新築されたミレニアムハウスの竣工記念披露会に竹本朝重・竹本駒之助両副会長をはじめ義太夫協会の人々が大挙出演、「寿式三番叟」を立方坂東登治、鳴物望月太左衛門社中で演じ、大いに華をそえた。同ハウスは舞台間口八間・奥行四間、客席二百七十。ほかに茶室を含む和室四十畳がある。

近時、永谷商事社長の理解・後援によって上野広小路亭での「じよぎ」も定着、一定の客をつかみ、さらに「ぎだゆう座」も始まり、義太夫協会の活躍の場は広がってきた。そこで提案だが、神田外大の舞台・和室での研究会開催の計画をすすめる。ここでは客を呼ぶことよりも、むしろ集客を意識しない、厳しい練磨の会にしたらなど考える。もとより場の提供には十分の責任を持つ。



浄瑠璃

- | | | |
|-------|-----|-------|
| 竹本 朝重 | 三味線 | 鶴澤 寛也 |
| 竹本駒之助 | | 鶴澤 弥吉 |
| 竹本 綾一 | | 鶴澤 紋榮 |
| 竹本土佐恵 | | 野澤喜恵博 |
| 竹本 越孝 | | 鶴澤 賀寿 |

師走の対面

越道師八十年前にタイムスリップ

昨年暮、国立演芸場で仮名手本忠臣蔵七段目、由良之助を勤めた竹本越道師は、なつかしい、うれしい、信じられないといった驚きの言葉を連発していました。それもそのはず、幼少の越道師に義太夫の手ほどきをした竹本三八さんのお孫さんが楽屋を訪ねられたのです。大阪在住の岩田光子さんは、記憶の片隅にあったタケモトコンミチという名前を電話帳で探し出し、公演の日に合わせて上京。初対面にもかかわらず、お二人は一瞬にして八十年前(！)にタイムスリップしたようです。

大正初期、幼い「さとちゃん」こと越道師は三八さんに大層可愛がられ、吉原のお座敷で、何回か三八さんの三味線で語ったことがあるとか。三八さんの膝に抱かれて人力車に乗ったこと、赤い毛布を掛けて貰ったこと、思い出は一気によりみがえりました。わずかに七才、前座のさとちゃんはみんなに豆太夫豆太夫と呼ばれたといひます。三八さんが弾き語りでお座敷を勤めると、また人力車に乗って家まで送って貰った由。赤い毛布と三八さんの膝の温もりまで伝わってくるような越道師の思い出話でした。

竹本三八 本名小畑かう、和歌山出身、明治24年1月19日生まれ。岩田さんの亡父上は、「パテー館で一緒した」という故土佐広師の手紙を大切にいらしたそうです。大正

七年の「東京女義太夫見立番付」(国立劇場刊『娘義太夫―人名録とその寄席―』所載)に、三八さんは東の大関として、女義初の人間国室・土佐広師(当時の芸名は伊達子)は大関客員として登録されています。北海道巡業をこなすなど全国的に活躍し、三八さんは大正12年10月17日、32才で亡くなられたそうです。尚、越道師は体調管理に努め、来年四月、卒寿記念の会を予定しています。日時・場所・内容は後日詳報。

ホームページをオープンして

昨年十月一日に開設以来、来訪者が千八百名に達しようとしております。

インターネットなんてとお思いの方もいらっしゃると思いますが、本年の一日体験教室の応募者アンケートに「ホームページを見て」という方が一割、『ぎだゆう座』の来場者のアンケートでも、二割の方がホームページを見て知ったということで、今後情報提供の場として重要な存在になりそうな予感がします。「義太夫大好き」という掲示板には、沖縄や京都からアクセスいただきました。

義太夫協会のホームページは、大変地味ですが、義太夫節愛好家を支援するポータルサイトとして、演奏会のご案内、義太夫協会会員との情報交換、義太夫教室OBの方へのサポートを中心としたさまざまな情報を広く提供していく予定です。

また二千年秋までには、演奏会案内の更なる充実や、他の古典芸能関係のサイトとの連

携、来訪者の希望条件に沿ったメール配信など、更なるサービスの向上をめざしていく予定です。皆様方のご協力のほどよろしくお願いたします。

情報掲載ご希望の方は

motomaruo@g_email.ne.jp

ホームページアドレス

http://www.ne.jp/asahi/gidayu/jyoururi/index.htm

国立劇場 演芸資料選書・7

娘義太夫

—— 人名録とその寄席 ——

■ 明治・大正・昭和の女義二五〇名の経歴・エピソード、明治以降に女義をかけた寄席のべ一〇七軒の場所・特徴を五十音順に配列

〈付録〉明治三二年『風俗画報』より

「当今の女義太夫」

● 水野悠子編・著

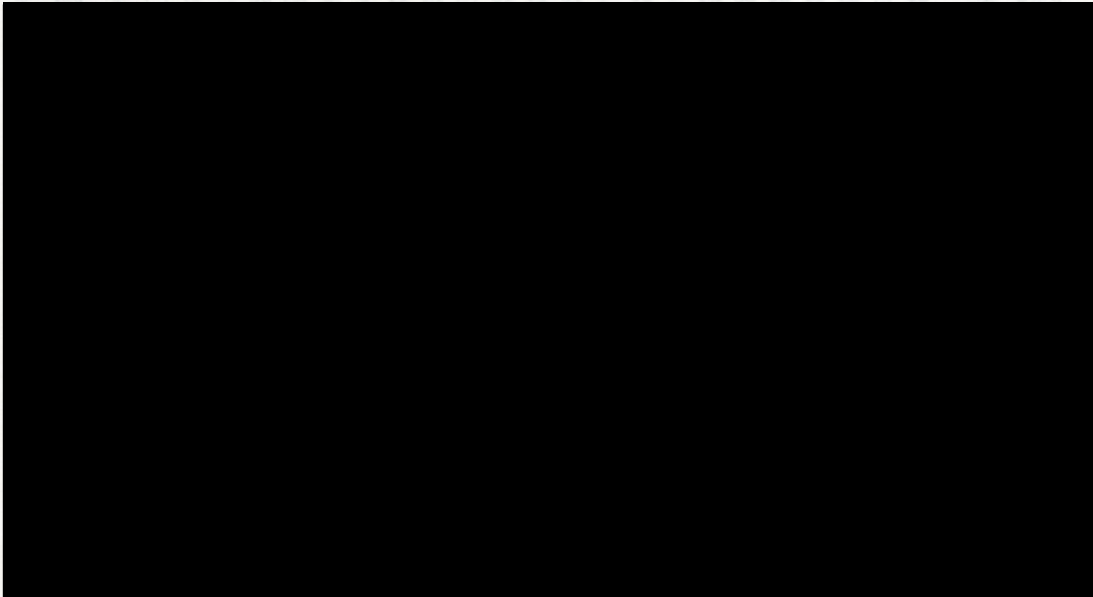
● 国立劇場芸能調査室編

● 二一〇〇円(税込)

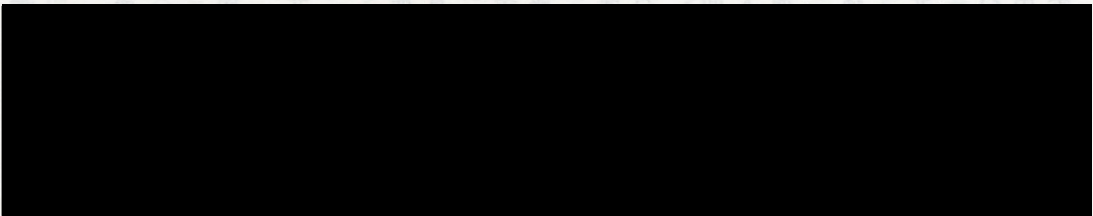
■ 国立劇場ロビー筋書き売場にて発売中

一般書店には並びません。御観劇の折、女流義太夫月例公演の折には是非どうぞ。

新入会員御紹介(入会順・敬称略)



住所(住居表示)等変更



〈物故者〉

豊澤重松 正会員 平成12年2月29日 死去

〈寄付〉

出月清人様	五万円
和田博様	五万円
新内協会様	一万円
池田弘一様	一万円
榊原功様	一万円
大日本素義会様	三万円

〈寄贈〉

赤川 誠様 レコード「綱大夫全集」他二組
 本「昭和の名人豊竹山城少掾」他四冊
 野澤松也様 三味線アガリ糸

【編集後記】

○何をするにも健康第一、改めて痛感!! (T)

○いとしのドミンゴさまのコンサート!! 心ここにあらずの作業です…スミマセン! (K2)

○夏カゼで三人そろってダウンしてしまいました。編集長とK2姉には、たいへん御迷惑をかけました。(Y・K・S)

○今年のカゼは強力です。みなさん注意しましょう。(K)